

## 8 学校アクションプラン

令和3年度 魚津高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	生徒が主体的に参加できる授業への改善、家庭学習時間の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒個々の進路希望がかなうよう学力の向上を目指し、授業の充実を図ってきた。互見授業、公開授業や授業アンケートを実施し、授業力向上に取り組んでいるが、授業を含め学習に対して受け身の生徒の割合が高いように思われる。</li> <li>生徒には入学当初よりオリエンテーションなどをおして、家庭学習の習慣を身につけさせる指導を行う。また、生徒の家庭学習時間や学習への意欲を把握し、面談や声かけによって、生徒一人ひとりにきめ細かな指導を行う。</li> </ul>	
達成目標	① 授業力の向上 ア 「授業に興味関心を持てる」と答える生徒の割合 イ 互見授業に参加した回数が年間2回以上である教員の割合	② 1, 2年の1日あたりの平均学習時間（平日休日を含めた平均） ア 平均学習時間 イ 平均学習時間が2時間を超える生徒の割合
	80%以上	ア 3時間以上 イ 80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>互見授業、公開授業、生徒による授業評価を実施する。実施後は、授業方法について教科部会で協議し、生徒が自主的、主体的に「もっと学びたい」と意欲を持ち、「深い学び」へと繋がるよう工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生活状況調査」を実施し、担任が生徒の生活実態（予習→授業→復習の黄金のサイクルができていないか）を把握し、効果的な面接指導を行う。また、調査結果をもとに学年、各教科が共通認識を持って連携し、課題の出し方について工夫する。</li> </ul>
達成度	ア 生徒による授業評価(7月実施)の結果 1学年 86.2%(87.4) 2学年 81.7%(84) 3学年 86.6%(89.3) 全学年 84.8%(86.9) イ 互見授業の参加数集計結果 2回以上参加した教員 77.7%(72.9%)	生活時間調査 年3回の平均 ア 1週間の平均学習時間(昨年度) 3.1時間 (2.8) 1学年 3.2時間 (2.7) 2学年 3.1時間 (2.9) イ 2時間を超える生徒の割合 85.2%(84%) 1学年 87.1%(81%) 2学年 92.3%(86%)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒による授業評価では、「授業に興味関心を持てるか」と設問で「関心を持てる」と回答した生徒の割合が、昨年比で若干減っているが各学年とも80%を超え、全体では85%近くの生徒が興味関心を持って授業に取り組んでいる。</li> <li>互見授業については、1学期には学校訪問、2学期初めにオンライン授業の導入などがあったこともあり、年間2回以上の実施は、昨年より5%上昇した。</li> <li>公開授業は11月に実施したが、平日ということもあり保護者の参加は少なかった。(保護者13人、中学校教諭3人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度と比べて学習時間が増加している。また、平均学習時間が2時間を超える生徒の割合は1, 2年ともに増加している。今年度はコロナ禍によるオンライン授業等があり生徒たちが家庭学習に取り組みざるを得ない状況があったことも少なからず影響しているかもしれない。</li> <li>学習時間が増えたことによって、学習内容の理解が深まっている状況には必ずしもつながっていない者もいる。新学習指導要領も踏まえ、学習の質の改善について具体的な方策(課題の与え方等)を考えていく必要がある。</li> </ul>
評価	B	A
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭での学習時間が増えたことを学習内容の理解の深まりにつなげていく工夫を期待したい。新学習指導要領を踏まえ、学習の質の改善に取り組んで欲しい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>真の学力をつけるにあたって、生徒の自立を促す必要があり具体的な方策について研究を進めたい。引き続き授業の改善や探究活動など学校での学びを通して生徒自らの学び方に対する指導が必要である。</li> </ul>	

(評価基準

A：達成した

B：ほぼ達成した

C：現状のまま

D：後退した)

令和3年度 魚津高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活	
重点課題	インターネット関連の正しい利用について	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒は、ほぼ100%近い割合でスマートフォンを所有している。You Tube、Instagram、ゲームなどの利用率が高く、利用時間も一日2～3時間となっている。また、顔が見えない人とやりとりが行える SNS の利用から、犯罪につながったり、巻き込まれたりするという危険も高まっている。</li> <li>学校では、スマートフォンの持ち込みは許可しているが、校地内での使用は禁止している。校内では電源を切って鞆や鍵付きロッカーに保管する規定になっているが、お昼時間や放課後などにこっそり使用している生徒がおり、発見し次第その都度指導を行っている。</li> <li>インターネット使用上の正しい知識や使用上のモラル、サイバー犯罪から身を守るための指導として、情報の授業や警察署、電話会社などによる安全教室等を開催し、実践力を養うよう指導している。</li> <li>昨年度のアンケート結果から、スマートフォンの利用が学習時間や睡眠時間の妨げになっていることを生徒達は自覚している。</li> </ul>	
	① スマートフォンの利用が学習時間や睡眠時間の妨げになっていると答える生徒の割合を30%以下とする。	②インターネット関連を安全に利用したと答える生徒の割合を80%以上とする。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>健全な高校生活を送るための基本的な生活習慣の確立を考えさせるとともに、SNS等の利用方法や危険性について指導し、自己と他者の安全確保のため、個人情報保護の概念を理解させる。</li> <li>学習時間や睡眠時間を妨げない利用の仕方について、クラス目標や個人目標を立てさせ、自主的自律的な態度でスマートフォンを利用する強い心構えを構築させる。</li> <li>学期末にアンケートを実施し、自己評価と計画の修正を図り、意識の継続を図る。</li> <li>PTA総会や各学期の保護者会等で、「スマホ家庭のルール」について実践例を示し、ルール設置を要請する。</li> </ul>	
達成度	1月アンケート結果より ※スマホが睡眠や学習の妨げになっている割合 1年 45% 2年 61% ※家庭のルールがある割合 1年 44% 2年 33%	1月にアンケート結果より ※安全に利用している生徒の割合 1年 96% 2年 99%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学式、5月のPTA総会、7-12月の保護者懇談会の資料に「家庭のスマホルール設置」について掲載し依頼した。</li> <li>5月1学年の各クラスで正しい使い方について話し合い、クラスごとにルールを決め教室に掲示し意識を高めた。</li> <li>12月終業式では、全校生徒対象に魚津高校のスマートフォン使用の現状を伝え、冬休み期間中のスマートフォンの使用について注意喚起した。</li> <li>今回アンケートを実施しなかった3年生には、卒業式前にアンケートを実施し、受験勉強とスマートフォンの関係について、先輩たちへのアドバイスとなる意見を求めた。</li> </ul>	
評価	C	A
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマートフォンの使用時間と学習時間、睡眠時間とリンクさせたことがよい。</li> <li>PTAとしても考えたい問題であり、どのように我慢するか方法を考えたい。</li> <li>3年生対象にアンケートを実施するのはよい。その結果を1,2年生にフィードバックさせ、各自が修正していく方向に向っていければ意義のあるアンケートとなるのではないかと。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマートフォンの使用については、家庭との連携・協力体制が重要となってくる。健康面に悪影響が出ないよう、家庭での過ごし方やスマートフォンの管理について、特に入学時の生徒への指導と保護者への投げかけを確実にやっていく必要がある。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:後退した)

令和3年度 魚津高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援	
重点課題	生徒一人一人が自己のあり方、生き方を考え、学習意欲を高める指導	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全般的に進学に対する意識は高いが、大学進学のための具体的な進路目標の設定が遅い生徒が見受けられる。</li> <li>・生徒自身が自己の能力・適性を深く考えて進路目標を設定しているとはいえない面があり、漠然とした進路目標のため、自主的・意欲的な学習に結びついていない生徒がいる。</li> </ul>	
達成目標	① 第1志望大学合格率 (出願時の第1志望合格者の割合)	②早期の進路目標の設定 (志望大学・学部・学科などの設定)
	合格率 65%以上	2年次終了時で生徒の割合 85%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活指導を基本とし、自学自習の力を養成する。</li> <li>・3年間を見通した進路指導計画を作成し実施する。</li> <li>・学習状況の把握を目的とした教科担当者を交えた学年検討会を開き、共通意識を持って学年及び全教師集団による指導を行う。</li> <li>・「進路探究」や「生徒希望選択研修」などを通して進路を考えさせる。</li> <li>・進路講演会や進路情報提供を充実させ、意欲的に学習に取り組ませる。</li> <li>・面接指導を通して、生徒理解を深めるとともに信頼関係を構築し、早期に進路目標を設定させることで学習意欲を高め、学習習慣を確立させる。</li> </ul>	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1志望大学合格率 71.3%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・志望大学がほぼ決まっている 38.9%</li> <li>・志望学部がほぼ決まっている 65.6%</li> <li>・志望学科がほぼ決まっている 40.8%</li> </ul>
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路目標の設定、学習習慣の確立に向けて、面接期間などを設定し、学級担任による個別面接指導を実施した。</li> <li>・各学年で、生徒の実態に応じた朝学習を計画的に実施した。</li> <li>・学習状況、進路志望状況の共有を図るため教科担当者を交えた拡大学年会議(2学年)を1回および進路検討会(3学年)を3回実施した。</li> <li>・進路のしおり(1~3学年)、受験のしおり(3学年)を作成・利用して本校生徒の実態に即した進路指導を行った。</li> <li>・土曜補充授業を各学年2回(予定は3回)実施した。</li> <li>・「先輩に学ぶ会」「合格者に学ぶ会」等を企画実施して、生徒の進路意識を高めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの進路をより具体的に考えるきっかけとして進路講演会(1年1回、2年1回、3年1回)を実施した。事後アンケートの結果として90%の生徒が「進路選択の参考になった」と答えている。</li> <li>・1学年全員で、10月に富山大学訪問を実施し、97%の生徒が大学について理解できたと答えている。</li> <li>・進路探究(1学年)では、全体会を含め9分科会を実施し、95%の生徒が「大変参考になった」「参考になった」と答えている。</li> </ul>
評価	A	D
学校関係者の意見	進路講演会や進路探究など、生徒の進路意識を高める取り組みについてよく取り組んでいる。また、進路別講座制など、魚津高校の特色を活かした指導を通じて進学実績を伸ばすことが、優秀な生徒の確保にもつながる。地域の方たちも魚津高校に関心を持ち期待をしている。今後も魚津高校としてのぶれない方針が大切である。	
次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の第一志望大学への進学意欲を維持しながら実際の入試出願を迎えるまでには、生徒と担任が個人面談を繰り返す中で信頼関係を築きつつ、いろいろな選択肢を用意し、その中から生徒にとってよりよい進路選択ができるように進路目標の確認と励ましを行うことが重要である。</li> <li>・また、進路目標の達成のため、できるだけ早くからの目標設定の重要性を生徒に認識させることが大切である。その際、なぜ希望するのかをしっかりと認識させることが必要である。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:後退した)

令和3年度 魚津高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動	
重点課題	生徒の自主的・自律的な活動の充実	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒主体の学校行事の運営</li> <li>部活動の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活・学習環境の向上</li> </ul>
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事の実施が困難な中で、生徒の自主性や主体性を発揮する場が少なくなっている。</li> <li>生徒は、学習と部活動を両立させようと努力している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃活動において、率先して活動を行う生徒が多い反面、指示待ちタイプの生徒も若干見られる。</li> <li>教室内で、机の近辺に荷物が無造作に置かれている場合がある。</li> </ul>
達成目標	①学校行事に主体的に参加し協力したことについて、達成感を抱いた生徒の割合。 ②学習と部活動の両立を図りながら、積極的に部活動に取り組んだことについて、達成感を抱いた生徒の割合。	① 保健委員による清掃点検などを通じた美化意識の向上。 ②生徒個々の校内環境を良くする意識の向上。
	80%以上	保健委員が美化に関するアイデアを出し、実行する 1回/学期
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会が主体となって、生徒がより積極的に学校行事に参加できるように、できる限り工夫をする。</li> <li>部活動に対する生徒の意識を高め、活動時間の有効活用を促すことによって、部活動の活性化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美化週間中の放課後に、保健委員が教室を巡回し、美化・整頓がなされているか点検する。</li> <li>授業終了後に、各自が身の周りの整理整頓や机椅子の整列を行うとともに、放課後に、日直や保健委員が翌日の授業に向け、教室全体の整備を行う。</li> </ul>
達成度	2月アンケート結果より ① 学校行事に積極的に参加した生徒の割合 1年：94% 2年：97% 3年：89% ② 部活動に積極的に取り組んだ生徒の割合 1年：98% 2年：94% 3年：96%	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期（6月中旬）から2学期（10月下旬）にかけて、徐々に点検項目や点検方法などを改善した。</li> <li>2学期には、各クラスの評価点が向上し、また僅差になったことから、各学年の生徒たちの意識が向上していることが窺えた。</li> <li>保健委員・生徒ともに概ね意識が上向いている。</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>球技大会については、感染症対策として、ありそドームを競技会場に加えて競技を分散させて開催した。また、体育大会については、人の密集を避けるため、座席配置や応援の形態を工夫して開催した。文化部発表会については、演目を工夫して開催した。通学路清掃については、清掃場所を学校敷地内の清掃に限定して、普段、清掃の行き届かない場所も含めて実施した。</li> <li>部活動については、感染症対策を取りながら、熱心に取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1・2学期に、1週間ずつ美化週間を設け、校内の環境美化を図った。保健委員が、事前に点検項目や点検方法、アナウンスの仕方などを検討した。実施中は朝 ST で意義や当日の重点事項について説明を行い、清掃終了後に各クラスの点検を行い、各教室の評価やコメントの記入を行った。事後には振り返りを行い、良かった点と改善点を確認した。今年度は、3学期にも美化週間を実施した。</li> <li>保健委員が定期的に洗面所の石鹼液の点検と補充を行い、校内の衛生環境に配慮している。</li> </ul>
評価	A	A
学校関係者の意見	特になし	特になし
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事については、生徒がより達成感が得られるように、活動内容を工夫したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃活動を含めた環境美化の意識が、学校全体に敷衍するような工夫を考察したい。</li> </ul>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した)

令和3年度 魚津高等学校アクションプラン — 5 —

重点項目	その他	
重点課題	図書貸し出し冊数の増加	生徒希望選択研修の充実
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書習慣が身につけていない生徒が少なからずいる。昼休みや放課後に図書利用で来館する生徒は一部の生徒に固定しつつある。時期によっては閲覧室を使う生徒が多くなる。例えば2学期以降は、3年生が小論文・面接のための資料探しや読書、また学習室として使用する機会が増える。</li> <li>・教科の授業やHR、総合的な探究の時間等での閲覧室利用には、収容人数や利用時間の制約が多いという課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2 学年生徒が対象で、生徒は自身の進路や関心に応じて希望する研修を選択して参加する。</li> <li>・進路に対する意欲・関心を高めることを目的とし過去8回実施されたが、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。今年度は研修実施の実現を目指し、感染拡大地域を避け、県内の大学を中心として研修先を探している最中である。</li> <li>・令和元年度の実施では、各研修の目的・目標を達成することができたという割合は97%で、設定目標を大きく超えた。</li> </ul>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年の平均貸し出し冊数3冊</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修先等の関係者と感染症拡大防止対策を講じて、研修を実施する。</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の図書館オリエンテーションを通じて図書館利用を促す。</li> <li>・2年次に実施される生徒希望選択研修の事前研修、HR、「総合的な探究の時間」での図書館の活用を促す。</li> <li>・生徒の興味・関心を捉えた企画展示や広報活動を工夫する。また、校外図書選定等を実施し、より生徒の読みたい本を揃える。</li> <li>・保護者の図書館利用を促す。</li> <li>・教職員に対しても図書資料に関する情報を発信する。また選書に関わってもらう機会を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の進路・適正などを勘案し、最適な研修を選択・受講させる。</li> <li>・事前研修の充実を図り、生徒が自主的・主体的に取り組めるように、個々人の意識を高める。</li> <li>・研修後にまとめ集を作成したり、プレゼンテーションを行ったりすることで、他者と協働して、収集した情報を整理し、まとめ、発信する技能を高める。</li> </ul>
達成度	全学年の平均貸し出し冊数2.8冊（3月28日現在）*昨年度は2.3冊	今後の高校生活の在り方を考える、将来を考える上で参考になったと答えた生徒96%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、4月初めに新入生図書館オリエンテーションを実施し、図書館の利用の仕方等についてガイダンスを行うことができた。→1学年の図書貸出が大幅に増加。</li> <li>・図書館棟だけでなく生徒玄関や廊下等での図書資料そのものの展示、読書啓発のための掲示を通じて図書資料の利用を促した。</li> <li>・図書館便りの発行回数を増やした。（年間3回→1月現在で6回）*2～3ヶ月に1度「図書館に入った本リスト」を全生徒に配布。教職員に対しても毎月、新着図書情報を提示すると共に選書に関わってもらうよう促した。図書館報に図書委員の特集ページを設けるなど紙面の刷新を図った。</li> <li>・5月、10月に生徒自身による校外図書選定を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の3大学に協力してもらい11のコースを県内研修先として設定した。従来から行っている英語・異文化研修を加え、全12コースで実施した。</li> <li>・事前学習では、図書、インターネット等を利用し、テーマについて関連した事柄について調べさせ、事前学習したことを発表し合った。また、質問事項等を準備させた。</li> <li>・研修先では、事前学習を踏まえ積極的に質問をする、ワークショップにおいては各自が自主的に発言・活動するなど、生徒主体の活動となるよう心がけた。</li> <li>・研修後は記録集の原稿を作成し、研修を振り返ることで今後の活動の参考となるよう指導した。</li> </ul>
評価	B	B
学校関係者の意見	特になし。	特になし。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の図書館利用促進に繋がる取り組みをさらに工夫する。</li> <li>・授業、「総合」等での図書館利用の拡充を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止を図りながら、研修先や研修内容を十分に検討し、生徒にとって有意義な研修となるよう企画運営する。</li> </ul>

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状のまま D: 後退した)